

計画策定にあたって

▽計画策定趣旨

- ①平成24年4月特例民法法人から一般社団法人移行。公益目的支出計画に基づき各種事業を展開、計画が終了を迎える。
- ②将来においても協会の役割を積極的に果たすため、関係団体と連携しながら継続して活動することを明確化。
- ③社会情勢の変化や各事業の費用対効果を見極めつつ、経営基盤の安定化を目指す。
- ④今後5年間の中期経営計画を策定し、各事業分野の中期的事業展開の方向と目標を設定。

▽計画策定の留意点

- ①協会設置目的:ばんえい競馬の健全な発展と地域の振興に寄与するとともに公共の福祉を増進。
- ②帯広市との関係:帯広市が平成24年3月に「帯広市ばんえい競馬運営ビジョン」を策定し、見直して今後も存続。
- ③協会の法的位置づけ:平成8年3月27日設立許可 農政第2505号指令・平成24年4月一般社団法人 北海道認可
- ④協会の役割:
  - ・北海道の開拓の歴史と馬文化を伝える「北海道遺産」として認定されており、馬文化の伝承に努める。
  - ・ばんえい競馬が地域経済に与える効果は極めて大きく、公益事業として更に健全な発展に寄与するよう努める。
  - ・十勝・帯広の観光資源であるばんえい競馬の普及啓発に努め、国内外に貴重な観光資源として発信する。

協会収支の長期的展望と中期的目標

▽継続的な事業活動を前提とした運営の必要性

- ①平成24年度から「公益目的支出計画」に基づき実施してきた事業が、平成28年度をもって公益目的財産額がゼロとなり終了することから、平成29年度以降、協会のあり方について中期的なビジョンを明確に示す必要がある。
- ②協会設立の趣旨と一般社団法人としての役割を再認識し、社会情勢の変化や会員のニーズを踏まえながらも、財政的な根拠を示し継続的な事業活動を前提とした運営が必要。
- ③将来に亘り、帯広市が安定したばんえい競馬事業を存続していくことが、当協会の事業推進に繋がっていくものであり、今後においても地域振興の一翼を担う団体として事業展開を積極的に行い、企業価値を高め社会的信頼を得る。

▽長期的展望と中期的目標

- ①当協会は、社会的役割を果たすため、各事業を推進することによって地域発展へ貢献しながら信頼と信用を得られる法人を目指す。また、ばんえい競馬の価値を幅広く発信し、失われた馬主のステータスを取戻すと共に、揺るぎない地位や規範を醸成することが長期的視点から有益である。
- ②今回策定する計画は、平成29年度から平成33年度までの五ヶ年計画で、中期的な目標は、健全かつ安定的に馬主を増やし、強靱な収益体制を構築することであり、経営基盤強化の第一歩を目指す。

今後5年間の収支と目標の基本フレーム

▽平成29年度以降の収支状況にかかわる課題等

- ①競馬普及啓発事業～事業量に見合った実施体制の検討、費用対効果と継続性を意識した視点が必要。
- ②生産振興等事業～生産者高齢化、後継者不足による頭数減少の構造的課題。馬価格高騰による種雄馬斡旋見直し。
- ③流通促進事業～相対取引が横行し、市場購買者も限定的。調教師会や各調教師に要請するも改善は見込めない状況。
- ④防疫衛生事業～関係機関及び馬主が情報を共有し対策を講じる必要がある。未接種馬の入厩等の指導を徹底。
- ⑤共済事業～1歳(明2歳馬)の事故救済措置について検討。弔慰金の額と共済負担金とのバランス定期的見直し。
- ⑥出走申込等事業～馬主報償金業務等事務の電子化等による効率化、迅速化を目指す。
- ⑦連絡調整事業～会員減少、高齢化による組織形骸化。会員相互の交流、ブロック懇談会の充実と入会促進が課題。
- ⑧診療業務補完事業～補助金減額に伴う当協会の支援体制(財政負担を含む。)新たな獣医師確保。畜産大学との連携模索。
- ⑨施設整備事業～耐震性の問題もあり将来的に大規模改修が必要。設備、什器備品類の老朽化も著しい。

▽今後5年間における経営改善の方向と留意点

- ①人事の適正化を図り、運営体制の効率化と機動性を確保
  - ・正職員数は現状を維持しつつ、事業内容や業務量に見合った嘱託職員又は臨時職員等の適正人員を確保する。
  - ・職員の士気の高揚と活力ある職場環境づくりを進める。弾力的に定年退職者(高齢者)の活用を必要に応じて図る。
- ②経営改善の方向性
  - ・コスト削減も重要であるが、それだけでは成長・発展は望めない。常に効率性に視点をおき改善を図る。
  - ・役職員全体が課題を把握し、意思決定後は目標に向かって積極的に取り組む。会員に問題意識を共有することが重要。
  - ・計画に掲げた取組みの進捗や成果、経営環境の変化を踏まえつつ、適宜修正、改善を図りながら適切な施策を実施する。
- ③帯広市との役割分担の点検と協力体制の検証・充実
  - ・帯広市との役割分担の点検と協力体制の検証・充実、効率的・効果的な事業実施に留意する。

◎今後五ヶ年の収支改善目標

(単位:千円)

	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
収 支	58,700	58,700	59,000	60,000	60,000
期末正味財産額	68,000	68,000	68,000	68,000	68,000

公益事業の概要及び今後の方向性等

▽取組方針

- ①競馬普及啓発事業～地域連携型イベントの集中実施、冠競走の継続、各種情報媒体による情報発信
- ②生産振興等事業～祭典ばんばの奨励、支援継続。種雄馬斡旋方法、購買予算額設定の見直しと予算増額要請。
- ③流通促進事業～当面の間は市場開設回数を1回に減らし継続実施するが、今後の情勢を見極め改めて判断する。

共益事業の概要及び今後の方向性等

▽取組方針

- ①防疫衛生事業～関係機関と連携し各種ワクチン接種、衛生検査等予防接種対策と補助金交付事業を活用する。
- ②共済事業～弔慰金給付の迅速化、給付基準の見直し、事故馬の救済措置1歳(明2歳馬)の検討する。
- ③出走申込等事業～会員情報管理、賞金控除システム構築等、事務処理の効率化を図るため電子化の推進を検討する。
- ④連絡調整事業～通常総会、ブロック懇談会における参加者の増員と交流機会の確保充実を図る。  
組織力を集結し入会を促進する取組みを行う。また、ばんえい競馬の振興に資する様々な課題 について、関係諸団体と調整を図り要望、意見などを具申する。

その他事業の概要及び今後の方向性等

▽取組方針

- ①診療業務補完事業～業務のサポートは引き続き行うが、財政面での見直しなど今後は自律的な経営を促す。  
事業内容の転換と補助金の安定的な確保が必要。(帯広市へ要請)  
帯広市と連携し、新たな獣医師確保、帯広畜産大学への診療模索を検討、推進を図る。
- ②施設整備事業～大規模改修については所有者が計画的に更新を検討。小規模修繕は当協会ですら予算措置が必要。  
設備整備、什器備品等の更新については、重点投資と全体的に網羅する投資を区別し、財政負担の平準化を図り計画的に進める。

収支計画

(単位:千円)

	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度
収 入	58,700	58,700	59,000	60,000	60,000
支 出	58,700	58,700	59,000	60,000	60,000
収支差額	0	0	0	0	0